

2020 年度（令和2年度）学校評価自己評価表

中央中学校区	校番 1	福山市東小学校
最終更新日		2021 年（令和3年）2月17日

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
 ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	スキル・・・ A【課題発見・解決力】 B【思考力・判断力・表現力】 倫理観・・・ C【協調性】 D【思いやり】
○児童生徒実態に基づくマネジメントサイクル ○課題発見解決型の授業改善 ○学力向上への指導工夫改善 ○共感的人間関係の構築、自己肯定感の高揚 ○開かれた学校とわかりやすい発信	○子ども主体の学びづくりの中で、主体性が育ちつつある。 ○小中共通の取組で、中学校生活に円滑に移行できている。 ●不登校傾向にある児童生徒数の割合が高い。 ●家庭での学習習慣をより主体的にする必要がある。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	ふるさとを愛し、地域の中で、伸びやかにたくましく成長している
自 校	ミッション	中学校区として統一した取組等	1 校区合同で実施する授業研究 2 児童会、生徒会による「いじめSTOP集会」や「あいさつ運動」の実施 3 校区校長会、校区教頭会、校区主任の実施
	すすんで学び、自ら伸びようとする子どもの育成 ～知・徳・体のバランスのとれた教育をめざして～	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	スキル・・・ A【課題発見・解決力】 B【思考力・判断力・表現力】 倫理観・・・ D【思いやり】
	学校教育目標	めざす子ども像	低学年 A 自分で決めたことを最後までやり通すことができる B お互いの考えを聴き合い、思いを伝え合うことができる D 相手の立場に立って、友だちの気持ちを考えることができる
	主体的に学び 仲間とともに 未来に生きる力を育む		中学年 A 日々の学習や生活の中で課題を見つけ、解決しようと努力することができる B 他者の考えを聴き、さまざまな気づきを持ち、自分の考えと比べながら表現できる D 友だちの気持ちや周囲の思いを考えた言動ができる
	現 状		高学年 A 聴いたり調べたりしたことから新たな課題を設定し、解決に向けての情報収集ができる B 他者の考えの意図を感じながら聴き、自分の考えを深め、その変化を表現することができる D 相手や場に応じて適切な言動ができると同時に、今、なにをすべきかを周囲に提案できる
＜児童生徒＞ ○保護者の教育的関心が高く、家庭生活共に心情面も安定している児童の割合が高い。 ●地域事情により絶対的な運動量が不足しがちで、体力がつきにくい。 ＜授業＞ ○全体的に理解力が高く、概ね落ち着いた状況の中で、授業が展開しやすい。 ○教師や友達の話に素直に同調する ●友達と多少の意見の違いがあっても、議論を避けて妥協する傾向がある。 ＜その他＞ ○さまざまな行事や活動を自分たちで企画喜びを感じ始めている。 ●定時退校への意識を高め、時間外勤務を削減する必要がある。	教科等 社会科・体育科	研究 主題・内容等 自らに自信を持ち 教え合う中で学びをデザインする力を身につける授業をめざして ① 「学び デザイン」キーワードに、自らの学びに自信を持って、課題追求をデザインする学習者集団の育成 ② 児童が自分たちで決めた方法で取り組む体力の向上 ③ 地元素材を再評価し、各学年での扱いを再編	
	めざす授業の姿	学び デザイン！ ～教え合う中で 未来に生きる力を培う～	

福山市立東小学校

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る 取組状況	力セ 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	力セ 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
2	設定した21世紀型”スキル&倫理観”を着実に育成する	★	継続	自らの学びに自信を持って、課題追求をデザインする学習者集団を育成する	「学び デザイン」をキーワードに単元のゴールや学び方の設定、サークルトーク等での対話の深化に取り組む。	「自分たちの学びを自分たちでデザインしている」児童質問紙80%以上。	・休業中にメール360本、動画150本配信し意欲を意高めた。・児童のよる単元のゴールをデザインめざしている。(78%)	4	3	・個別追究の学習環境を整備する。 ・今後タブレット等を利用した学び方の使用法や目標を自己決定する習慣をつける。	・民泊の代替案のプレゼンをはじめ自分たちの課題解決、学びをデザインする学習経験を積んだ。(79%) ・ICT 推進に率先して取り組んだ。	4	3	4	・「学び デザイン」を継続し、個別最適の学習を行う集団の育成を継続する。 ・児童の ICT 機器の活用を促進する。
4	心身ともに健康な体をつくる。		継続	児童が自分たちで決めた方法で取り組む体力づくりの実施 新型コロナ対策で児童・職員の安全対策を行う	縦割り班活動の児童による企画、体育での自分に合った課題設定に取り組む 新型コロナ対策で予防・対応策を組織的に実施する	「自分たちで決めた方法で取り組んでいる」児童質問紙 80%以上 児童全員の健康状況を的確に把握する	・保護者の賛成を得て水泳を行った。 ・体育では、自分の映像等を元に個別の目標を決めている。(87%)	4	4	・縦割り班集会を再開し、終始一貫して「自分たちで」決めたことを試行錯誤しながら行うものにする。	・コロナ禍でも児童が「自分たちで」大休憩等の活動内容を工夫し、体力づくりに取り組んだ。(88%) ・コロナ対策を徹底した。	4	4	4	・縦割り班活動中心に自分たちで企画する体力づくりを再構築する。 ・コロナ下での工夫を促す。
1	業務改善、業務削減を推進する。		継続	教職員が元気に学びづくりに専念できる業務環境を整備する	職員の働き方に対する意識を醸成するとともに、学校時程等の業務環境を見直す。	時間外勤務が月平均 45 時間以内の職員を100%以上にする。	・ICT サービスを使ってスキルは大きく向上した。 ・時間外勤務時間量は下げ止まった。会議の整理で再加速させる。	3	3	・午後6時退校を一層習慣づけ、勤務時間内にやりきる意識を高める。 ・若手教員を勇気づけることで、元気に働けるようにする。	・職員は互いの体調をカバーし、コミュニケーションを取っている。 ・保護者対応で在校時間が長くなり、45時間以上が全体の5%(月平均1.0人)だった。	3	3	3	・授業準備や子どもと向き合う時間の確保のため書類のデータ化、省力化を進める。 ・退校時間設定を早める。

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。